

「不忘山は雪の中に」

後藤 芳信

福島不忘スキークラブ創立九十周年おめでとう御座います。この伝統あるスキークラブの一員として過ごせたことは私のスキー歴の誇りです。

不忘クラブの名前の由来として、故羽田善一さんの文に「不忘の名は板谷から南に見える尾根の広い山(五色の賽の河原)」と紹介されています。私は五色スキー場で滑ったことはあるものの 不忘山へは登ったことはなく、栗子スキー場から五色の方を眺め漫然と、不忘山はあの辺かなと考えていました。思い立って、三年くらい前に撮った五色温泉とその背後の山々の写真をながめて、不忘山を探してみることにしました。何人かのクラブの人に聞いてみるものの、はっきりとしたことが分かりません。しかし、古い山地図を見ていると、五色温泉の上部に「賽の河原」の表記を見つけました。さらに確認のため、五色温泉に電話をすると、「宗川りつ」さんという方から、元五色スキー場の上が「不忘山」といい、「賽の河原」はその後ろで、昔はそこに地蔵尊があって五色温泉にきたお客さんが、そこまでお参りに行っていたことがある。今はもうそこまでの道も荒れて行けなくなった。といったお話を聞いて、我が不忘スキークラブの原点と言える山は、元五色スキー場のゲレンデの延長上、標高 1077 メートルの山が「不忘山」だと確信しました。

五色スキー場は明治四十四年の開場で、大正十二年には西洋風の「六華クラブハウス」が造られ、多くの宮様などが訪れスキーを楽しまれた。詳しくは当クラブの八十周年記念誌に佐久間富雄さんが記されている。付け加えさせていただけるなら、第一回の指導員検定会が五色で開かれ、前記の故羽田善一さんが指導員をとっておられる。また、昭和二十五年には国民体育大会の滑降コースとして、不忘山の右手上部にある高倉山(1461メートル)から五色までの四キロメートル、標高差八百メートルのコースがつくられ長野県の猪谷千春選手(第七回冬季オリンピック回転銀メダル)が三分二十秒で優勝した。と郷土史に紹介されています。当時の五色スキー場の賑わいが目に見えるようです。しかし時代の流れの中、平成十年に五色スキー場は閉鎖され、今は温泉宿のみとなりました。

不忘クラブの草創期の方々や多くの先輩スキーヤーに愛され日本のスキー史に確かな足跡を残した五色スキー場、冬の晴れた日、栗子スキー場の頂から望む不忘山は、白い雪に包まれ静かに佇んでいました。福島不忘スキークラブの更なる発展を祈念いたします。



左端平らな山が 不忘山 中央下部の白い斜面が元五色スキー場と五色温泉です